

## 平成 16 年度普及に移す技術

[ 普及に移す技術名 ] 本県に適したリンゴの品種と栽培方法

[ 要約 ] 本県におけるリンゴ栽培は品種の選定が重要であり、中生品種の「陽光」、晩生品種の「ふじ」が適する。また本県では樹勢は強くなりやすいため台木に M26 を使用し、コルドン整枝法を採用することにより、品質、収量を安定させることができる。

[ キーワード ] リンゴ、品種特性、整枝法、北部温帯果樹

[ 担当 ] 福井農試・園芸・バイテク部・果樹研究グループ

[ 連絡先 ] 0776-54-5100 h-taniguchi-ii@ain.pref.fukui.jp

[ 分類 ] 参考

---

### [ 背景・ねらい ]

県内のリンゴ栽培はここ数年増加しているものの、着果の不安定、着色不良、収穫前落果など収量・品質面での課題が多い。そこで、本県のような高温多湿の気象条件下での結実安定や高品質果実生産のための適正品種選定と栽培管理技術を確立する。

### [ 技術の内容・特徴 ]

1. 開花期の早晩は品種間で5日程度の差であり、収穫期は長野県と比較し7～10日程度早くなる(表1)。果重、果実径は品種特性は表2の通りで、王林、陸奥は着果量が少なく大玉となる。
2. 「さんさ」、「ひめかみ」、「千秋」、「陽光」、「ふじ」の収穫前落果は他の品種と比較して少ない(図1)。
3. 果実着色は「陽光」、「ふじ」で良好である。果実硬度、糖度など、果肉の品質は全品種で良好である。また、2003年の冷夏の年でも果実糖度の低下は少ない(表2)。
4. 本県では中生品種で「陽光」、晩生品種で「ふじ」が適し、早生品種の「さんさ」、「ひめかみ」、「千秋」が比較的適する。
5. 各品種ともコルドン整枝を用いることにより、スレンダースピンドル整枝に比べ収量が増加する(図2)。

### [ 技術の活用面・留意点 ]

1. 花数の多い「アルプス乙女」は受粉樹に用いられるが、開花期がやや早いため、「さんさ」など開花の早い品種の受粉樹とする。
2. 各品種とも袋かけを行うことで果実着色は向上する。ふじは遮光率の高い2重袋、その他の品種は1重袋を用いる。また、収穫前1ヶ月の目安に除袋する。
3. 「陽光」はサビ果防止のため幼果期から小袋かけが必要である。
4. 整枝法は台木がM26の場合はコルドン整枝で1樹占有面積10～15m<sup>2</sup>、樹勢をさらに抑制したい場合はM9などわい化性が強い台木を利用し、スレンダー整枝で、1樹占有面積7～8m<sup>2</sup>とする。
5. 施肥は成木園で年間窒素量5～7kgとし、樹勢を安定させる。

[ 具体的データ ]

表1 各品種の生育期

	開花盛期	収穫期
さんさ	4月21日	8月20日
つがる	4月22日	8月31日
ひめかみ	4月24日	9月7日
千秋	4月25日	9月13日
陽光	4月23日	10月4日
北斗	4月25日	10月4日
アルプス乙女	4月20日	10月12日
王林	4月23日	10月10日
陸奥	4月21日	10月12日
ふじ	4月23日	10月22日

2001～2003年の平均値

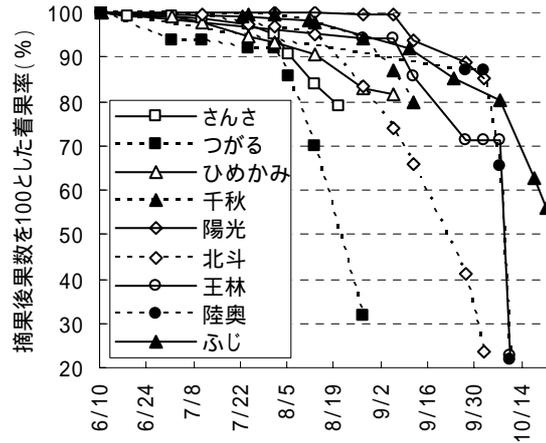


図1 各品種の着果率の推移

2002年のデータ。ふじのみ2003年データで一部イノシシの被害あり。

表2 各品種の果実品質特性

	果重 (g)	横径 (mm)	着色程度	硬度 (lbs)	糖度(Brix%)		pH
					2002	2003	
さんさ	240.1	84.2	1.3	8.0	13.5	11.4	3.7
つがる	296.3	90.4	1.0	7.7	12.6	12.4	3.9
ひめかみ	261.6	87.5	1.4	8.2	12.4	11.9	3.6
千秋	263.2	84.4	1.3	7.7	12.6	12.6	3.6
陽光	339.3	94.1	2.3	8.9	13.0	13.0	3.7
北斗	298.9	93.9	1.3	7.2	13.6	11.5	3.7
王林	444.5	98.0	-	8.4	13.3	11.1	3.5
陸奥	382.5	95.0	-	8.0	11.5	11.3	3.5
ふじ	334.7	94.4	2.7	7.5	13.9	13.6	3.8

糖度以外は2002,2003年の平均値

着色程度は、0=着色なし、1=1部着色あり、2=果面50%程度着色あり、3=果面80%以上着色あり

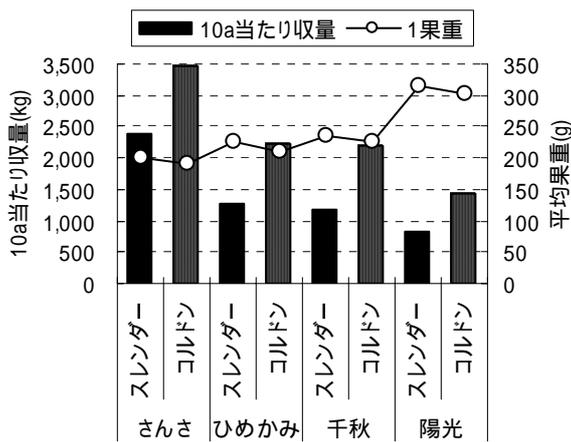


図2 整枝法が収量、果重に及ぼす影響

2003年のデータ。  
台木は全て M26